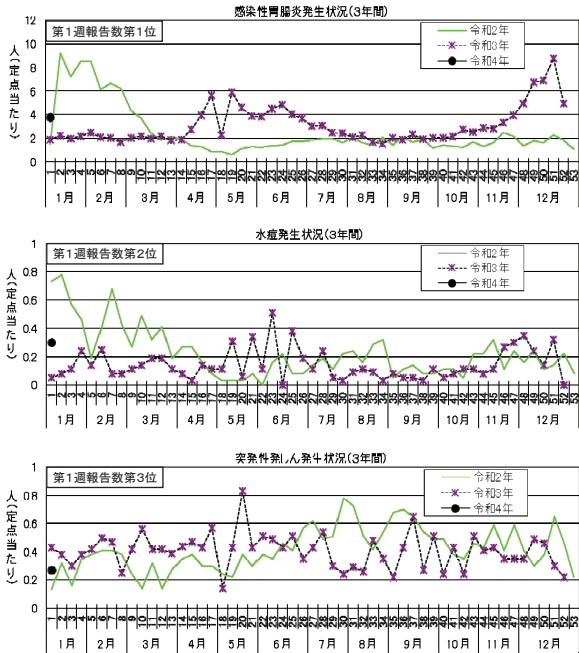


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年1月3日（月）～令和4年1月9日（日）〔令和4年第1週〕の感染症発生状況

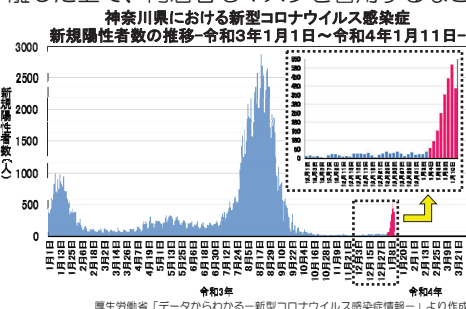
第1週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 水痘 3) 突発性発しんでした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.78人と前週(4.94人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 水痘の定点当たり患者報告数は0.30人と前週(0.00人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.27人と前週(0.22人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



新型コロナウイルス感染症～オミクロン株の検出数が急増しています！～

現在、全国では、オミクロン株の検出数の増加とともに、新型コロナウイルス感染症の報告数が急増しています。神奈川県においても、年始以降の報告数が大幅に増加しています。

新型コロナウイルス感染症の急速な拡大に伴い、神奈川県では令和4年1月6日から、オミクロン株陽性者は重症例を除き、宿泊施設又は自宅で療養していただくこととなりました。海外のいくつかのデータによると、オミクロン株は第5波の主流であったデルタ株と比べて、家庭内での二次感染率が概ね2倍程度高いことが報告されているため、自宅療養の際には感染者を可能な限り隔離した上で、同居者もマスクを着用するなどの予防対策が必要になります。



自宅療養の際に注意するポイント

- 感染者の部屋を分ける
- 同居者もマスクを着用
- 定期的な換気
- こまめな手洗い、手指消毒
- 感染者の世話に限られた方で
- 汚れたシーツ、衣服などを洗濯
- 手で触れる共有部分を消毒
- ゴミは密閉して廃棄

厚生労働省「ご家庭に新型コロナウイルス感染症が疑われる場合
 家庭内でご注意いただきたいこと～8つのポイント～」より

現時点では、ワクチン接種者については、発症日（無症状発病日または発症日）から10日後に退院又は療養解除となっています。
 ※我が国で承認されているワクチンを規定回数以上接種した日から14日前以上経過している方

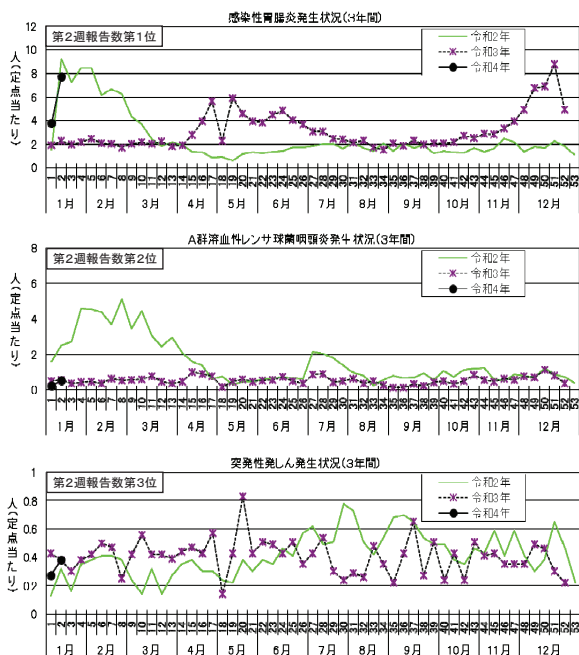
川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター
 (問合せ先) 044-276-8250 令和4年1月12日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年1月10日（月）～令和4年1月16日（日）〔令和4年第2週〕の感染症発生状況

第2週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発しんでした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は7.73人と前週(3.78人)から増加し、例年より高いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.54人と前週(0.24人)から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.38人と前週(0.27人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



新型コロナワクチンの3回目接種について

我が国では令和3年12月1日から新型コロナワクチンの3回目接種が開始され、川崎市においてもワクチン2回接種済みの18歳以上の方に対して、3回目の接種時期に合わせて接種券の発送を行っています。

オミクロン株に対するワクチン2回目接種後の発症予防効果はデルタ株と比べて低いものの、3回目接種により重症化予防効果が高まることが報告されています。川崎市における令和4年第2週(1月10日～1月16日)の新型コロナウイルス感染症の報告数は2570件と、2週連続で大幅に増加しました。周囲の方へ感染を拡げないだけでなく、重症化を予防するためにも、接種券が届いた方は3回目接種を是非御検討ください。

川崎市における新型コロナワクチンの3回目接種について

◆対象者・接種間隔
 新型コロナウイルスを2回接種済みの方で接種日に18歳以上の方

| 対象者 | 接種間隔 |
|-----------------------------------|---|
| 医療従事者等(自院接種) 高齢者施設等の入所者等(巡回接種) | 2回目接種から6か月以上 |
| 上記に該当しない16歳以上の方 | 令和4年1月まで 2回目接種から6か月以上 令和4年2月 2回目接種から7か月以上 令和4年3月 2回目接種から6か月以上 |
| 上記に該当しない16歳未満の方 | 令和4年2月まで 2回目接種から8か月以上 令和4年3月 2回目接種から7か月以上 |

令和4年4月以降 全対象者 2回目接種から6か月以上

◆接種会場等

| 接種会場 | 協力医療機関(個別接種) | 集団接種会場(各区分1か所) | 大規模接種会場(日生生命ホール) |
|----------|-----------------------|---------------------|------------------|
| 予約受付開始日時 | 接種が終了した医療機関から順次開始 | 令和4年1月25日(火) 8時30分～ | |
| 予約方法 | 電話、予約サイト、医療機関のウェブサイト等 | 電話、予約サイト | |
| 接種開始日時 | 接種が終了した医療機関から順次開始 | 令和4年2月2日 | 令和4年2月1日 |
| 使用するワクチン | ファイザー社製 | モルタナ社製 | |

詳細につきましては、川崎市ホームページをご覧ください。

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター
 (問合せ先) 044-276-8250 令和4年1月18日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年1月17日（月）～令和4年1月23日（日）〔令和4年第3週〕の感染症発生状況

第3週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 流行性角結膜炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は8.89人と前週（7.73人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.54人と前週（0.54人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.44人と前週（0.13人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

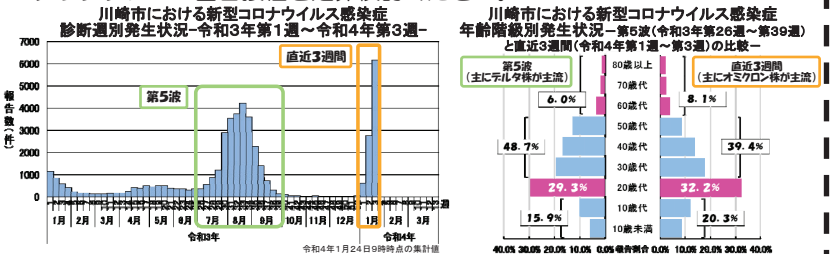


新型コロナウイルス感染症～過去最多を更新～

神奈川県では、令和4年1月21日から2月13日まで、県内全域にまん延防止等重点措置が適用されました。現在、全国各地で新型コロナウイルス感染症の報告数が急増しており、川崎市においても令和4年第3週（1月17日～1月23日）の報告数が6167件となり、過去最多を更新しました。

報告数が急増した直近3週間は、第5波（令和3年第26週～第39週）と同様に20歳代の割合が非常に多くなっています。若い世代の方は、高齢者などに感染を上げないために、体調が悪い場合は必ずマスクを着用するとともに、人との接触は極力控えましょう。

また、60歳以上の割合は直近3週間で8.1%と、第5波の6.0%と比べて増加がみられています。高齢者の方は重症化リスクが高いため、新型コロナウイルスワクチンの3回目接種を是非検討ください。



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所） 問合せ先 044-276-8250 令和4年1月25日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年1月24日（月）～令和4年1月30日（日）〔令和4年第4週〕の感染症発生状況

第4週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発しんでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.95人と前週（8.89人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.59人と前週（0.54人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.19人と前週（0.30人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。

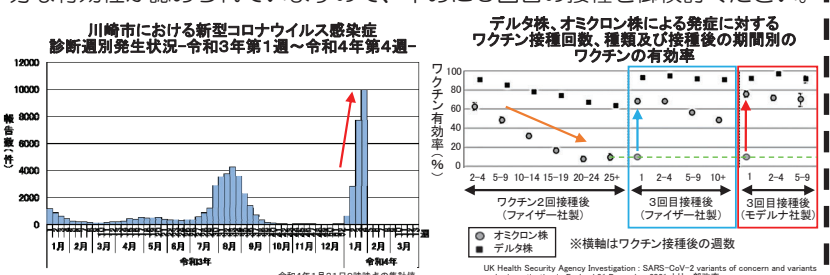


新型コロナウイルス感染症～2週連続過去最多を更新～

川崎市では、令和4年第4週（1月24日～1月30日）の新型コロナウイルス感染症の報告数が9924件となり、前週の7710件を大きく上回って、2週連続で過去最多を更新しました。

現在の流行の主流であるオミクロン株に対しては、令和3年8月頃に主流であったデルタ株と比較して、新型コロナウイルスワクチンの有効率が大幅に低下するといわれています。さらに、有効率は時間とともに低下し、2回目接種後の約4か月後には20%以下となることから、3回目の接種が推奨されています。

3回目の接種は、ワクチンの種類にかかわらず、オミクロン株に対しても有効であることが複数のデータで示されています。異なる種類のワクチンでも十分な有効性が認められていますので、早めに3回目の接種を御検討ください。



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所） 問合せ先 044-276-8250 令和4年2月1日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

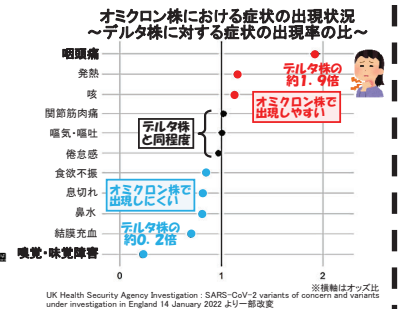
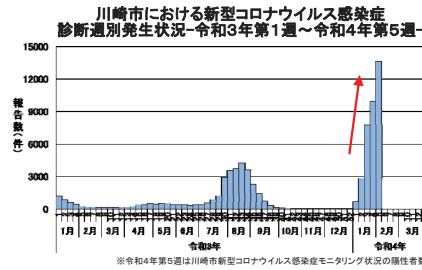
令和4年1月31日（月）～令和4年2月6日（日）〔令和4年第5週〕の感染症発生状況

第5週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 流行性角結膜炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.27人と前週(6.95人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.62人と前週(0.59人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.22人と前週(0.00人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



新型コロナウイルス感染症～症状が変化しています～

川崎市では、令和4年第5週（1月31日～2月6日）の新型コロナウイルス感染症の報告数が13617件と、3週連続で過去最多を更新しました。現在の流行の中心であるオミクロン株に感染した場合の症状は、第5波の際に主流であったデルタ株に感染した場合と比べて、軽症であることが多いとされています。また、海外のデータによると、咽頭痛の出現率が約1.9倍高いものの、嗅覚・味覚障害の出現率は約0.2倍といわれています。オミクロン株は、感染しても症状が軽く重症化しにくいとされていますが、高齢者や基礎疾患のある方では肺炎等を起こす可能性もあります。たとえ軽症であっても何らかの症状がみられた場合は、マスクを適切に着用し、人との接触は極力控えるようにしましょう。



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター (問合せ先) 044-276-8250 令和4年2月8日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

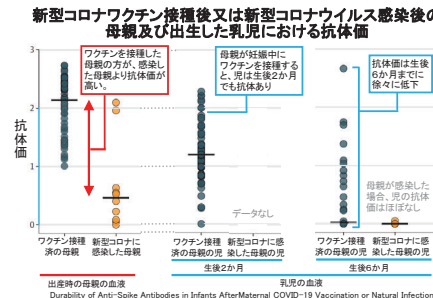
令和4年2月7日（月）～令和4年2月13日（日）〔令和4年第6週〕の感染症発生状況

第6週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 突発性発しん 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.33人と前週(5.27人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.28人と前週(0.16人)から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.19人と前週(0.62人)から減少し、例年より低いレベルで推移しています。



新型コロナウイルス感染症～妊婦の方もワクチンを～

新型コロナウイルス感染症は、妊婦が妊娠後期に感染すると、早産率が高まり、妊婦自身も一部は重症化すると報告があります。そのため、妊娠を計画している方を含めて、妊娠中及び授乳中の方も、新型コロナワクチンの接種勧奨の対象となっています。さらに、母親が妊娠中にワクチンを接種した場合は、妊娠中に新型コロナウイルスに感染した場合と比べて、産まれた児の抗体価が高いことが海外のデータで示されています。妊娠中のワクチン接種は母児ともに有効とされており、時期を問わず接種可能ですので、是非御検討ください。また、妊婦の感染は、約8割が夫あるいはパートナーからの感染とされていますので、夫、パートナー及び同居の方も早めに接種をしましょう。



妊婦の新型コロナワクチンQ&A

Q. ワクチン接種後の発熱や痛みに対し、解熱鎮痛剤を使用してもよいですか？
アセトアミノフェンは服用可能です。その他の解熱鎮痛剤は、主治医に相談ください。

Q. 妊婦高血圧症候群、妊婦糖尿病等の合併症がある場合でも、接種しても大丈夫ですか？
患者さんにより合併症の状況が異なりますので、事前に産婦人科の主治医に相談の上、可能であれば接種することを御検討ください。

日本産科婦人科学会「新型コロナウイルスワクチン(mRNAワクチン)Q&A」より一部抜粋

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター (問合せ先) 044-276-8250 令和4年2月15日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年2月14日（月）～令和4年2月20日（日）〔令和4年第7週〕の感染症発生状況

第7週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・突発性発しんでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.61人と前週（4.33人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.28人と前週（0.19人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.28人と前週（0.28人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



5～11歳の方へ新型コロナワクチンの接種券を発送します。

新型コロナウイルス感染症は、小児では症状が軽いことが多いものの、基礎疾患等を有する小児では、重症化のリスクが高いとされています。そのため、5～11歳（平成22年4月2日～平成29年3月1日生まれ）の小児に対して、新型コロナワクチンの接種の機会を提供することとなりました。

新型コロナワクチンを接種する際には、他のワクチンとの接種間隔を2週間以上あける必要があります。他のワクチンの接種を予定されている場合は、接種間隔に注意して予約をお取りください。

5～11歳の方の新型コロナワクチン接種に関する情報

| | |
|---------|---|
| 対象者 | 接種日において5～11歳の方 （原則として、接種日に川崎市に住民登録のある方） |
| ワクチンの種類 | ファイザー社製（5～11歳用） ※1回目接種時に11歳だった方が2回目の接種時までに12歳の誕生日を迎えた場合、2回目接種に5～11歳用のワクチンを使用します。 |
| 接種間隔・回数 | 3週間の間隔をあけて2回接種 |
| 接種券の発送日 | 平成22年4月2日～平成29年3月1日生まれの方 →令和4年2月24日（木）に発送 平成29年3月2日以降生まれの方 →対象年齢に達する月の月上旬に発送予定 |
| 予約受付開始日 | 令和4年3月1日（火）午前8時30分～ 準備が整った医療機関から順次受付開始予定 |
| 接種開始日 | 令和4年3月5日（土）以降 →一部の医療機関で接種を開始 令和4年3月14日（月）以降 →準備が整った医療機関から順次接種を開始 |
| 接種場所 | 市内協力医療機関約150か所 ※医療機関一覧については川崎市のホームページをご覧ください。 |

新型コロナワクチンを受ける際の注意点

- ✓接種にあたって
 - ・ワクチンの接種には保護者の同意と立ち合い（同伴）が必要です。
 - ✓予防接種を受ける時に持っていくもの
 - ・接種券
 - ・予約票
 - ・本人確認書類（健康保険証等）
 - ・母子健康手帳
 - ✓予防接種の費用
 - ・無料
- 詳細については、川崎市のホームページをご覧ください。

・3月中の予約受付について（お願い）
3月のワクチン供給量は限られています。基礎疾患等のある方が優先して接種を受けていただけるように、基礎疾患等のない方は、4月以降の接種も御検討をお願いいたします。



川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250
令和4年2月22日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年2月21日（月）～令和4年2月27日（日）〔令和4年第8週〕の感染症発生状況

第8週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 水痘でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.67人と前週（4.61人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.42人と前週（0.28人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。水痘の定点当たり患者報告数は0.11人と前週（0.03人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。



「子ども予防接種週間」3月1日（火）～3月7日（月）

3月1日～3月7日は「子ども予防接種週間」です。予防接種には、対象疾患・対象者・接種期間等が定められた定期予防接種と、希望者が各自で接種可能な任意予防接種があり、いずれも接種することで病気の発症や重症化を予防することができます。これらのワクチンで予防可能な疾患は、新型コロナウイルス感染症の流行開始以降、報告数が大幅に減少しましたが、今後は海外との交流の再開とともに、以前の水準に戻っていく可能性があります。

お子さんを感染症から守るため、母子健康手帳で予防接種歴を確認し、まだ定期予防接種が済んでいない方は、なるべく早く接種を受けましょう。

新型コロナウイルス感染症の発生に伴う定期予防接種の再延長について

川崎市では、新型コロナウイルス感染症の発生に伴い定期予防接種を受けられなかった方は、申請することにより接種期間を令和4年5月31日まで延長できる場合があります。詳細は川崎市ホームページをご覧ください。

川崎市 定期予防接種

子どもの定期予防接種と任意予防接種の種類

- ＜定期予防接種等＞
 - ✓ロタウイルス感染症
 - ✓Hib感染症（ヒブワクチン）
 - ✓小児の肺炎球菌感染症（小児用肺炎球菌ワクチン）
 - ✓B型肝炎
 - ✓ジフテリア、百日咳、ポリオ、破傷風（1期：DPT-I・PV）（2期：DT）*
 - ✓BCG（結核）
 - ✓麻疹・風しん（MR）
 - ✓水痘（水ぼうそう）
 - ✓日本脳炎
 - ✓ヒトパピローマウイルス感染症（HPVワクチン）
 - ※新型コロナウイルス感染症（臨時予防接種）
- ＜任意予防接種＞
 - ✓おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）
 - ✓インフルエンザ など



川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250
令和4年3月1日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年2月28日(月)～令和4年3月6日(日)〔令和4年第9週〕の感染症発生状況

第9週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発しんでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.00人と前週(3.67人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.27人と前週(0.42人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.16人と前週(0.08人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



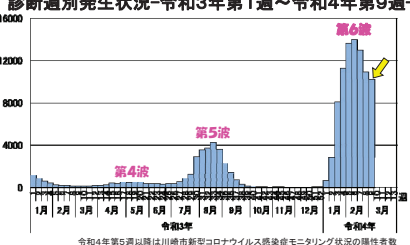
新型コロナウイルス感染症～季節性インフルエンザとの違い～

川崎市における新型コロナウイルス感染症の令和4年第9週(2月28日～3月6日)の報告数は、10205件と依然として高い水準で推移しており、神奈川県においては、令和4年1月21日から適用されているまん延防止等重点措置が、3月21日まで延長となりました。

現在の流行の主流であるオミクロン株は、従来株と比べて重症者や死者の割合が低いといわれていますが、季節性インフルエンザと比較すると、肺炎の発症頻度や致死率が高いことがわかっています。

新型コロナウイルス感染症の発症を防ぐために、手指消毒や正しいマスクの着用などを心がけるとともに、追加接種の接種券が届いた方は、重症化を防ぐために是非接種を御検討ください。

川崎市における新型コロナウイルス感染症診断週別発生状況-令和3年第1週～令和4年第9週-



オミクロン株による新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザの比較

| | 新型コロナウイルス感染症(オミクロン株) | 季節性インフルエンザ |
|---------|---|----------------------------|
| 感染者数 | 約267万人 (令和4年1月1日～) ※令和4年2月21日現在 | 数百万人～ 1千数百万人 (1シーズン) |
| 肺炎の発症頻度 | 5.6% | 1.1～2.5% |
| 致死率 | 約0.13%程度 (令和4年1月1日～) ※令和4年2月21日現在 | 0.006～0.09% |

第74回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード資料より

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所) (問合せ先) 044-276-8250 令和4年3月8日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年3月7日(月)～令和4年3月13日(日)〔令和4年第10週〕の感染症発生状況

第10週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・突発性発しんでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.51人と前週(3.00人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.22人と前週(0.27人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.22人と前週(0.16人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



梅毒の報告数が増加しています！

梅毒は、梅毒トレポネマを原因とする細菌感染症で、主に性的接触などにより粘膜や皮膚の小さな傷から病原体が侵入して感染します。

川崎市における梅毒の報告数は、令和2年までの3年間は減少傾向でしたが、令和3年は再び増加し、令和4年は第10週(3月7日～3月13日)までに計18件の報告がありました。今後過去5年平均と同様のペースで増加すると、令和4年の報告数は100件を超える可能性があります。

梅毒は、無治療のまま経過すると脳や心臓などに重大な合併症がみられるほか、妊婦が感染すると胎盤を通して胎児に感染し、流産や先天梅毒などを引き起こす可能性があります。感染が疑われる場合は、早期に医療機関等を受診し、検査及び治療を受けることが重要です。

先天梅毒の症状・治療・予防について

【症状】
先天梅毒は、発症時期によって早期先天梅毒と晩期先天梅毒に分けられます。

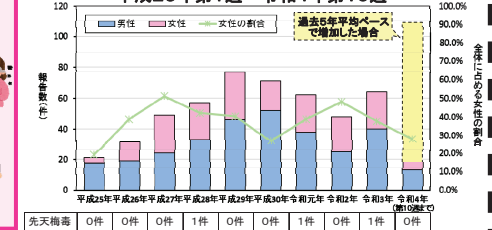
- **早期先天梅毒**
生後まもなく皮膚病変、肝脾腫、骨軟骨炎などを呈する。
- **晩期先天梅毒**
乳幼児期は症状を呈さず、学童期以降、実習性角膜炎、感性性難聴、歯牙変形などを呈する。

【治療】
抗菌薬治療

【予防】
スクリーニング検査等による早期発見・早期治療

梅毒は1度感染しても終生免疫は得られず、再度も感染する可能性があります。

川崎市における梅毒の性別発生状況-平成25年第1週～令和4年第10週-



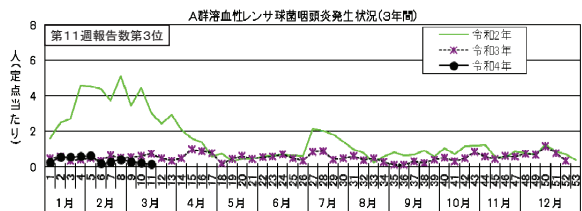
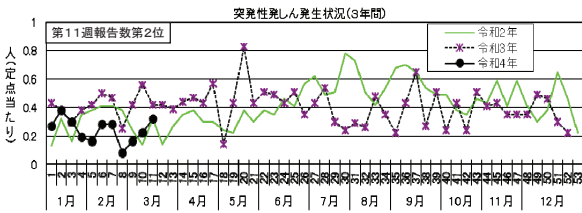
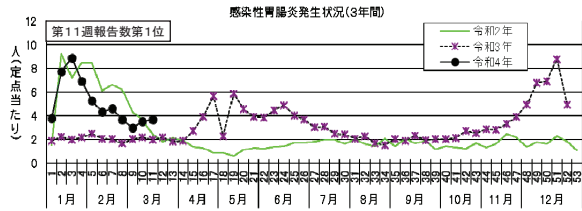
川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所) (問合せ先) 044-276-8250 令和4年3月15日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年3月14日（月）～令和4年3月20日（日）〔令和4年第11週〕の感染症発生状況

第11週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 突発性発しん 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.70人と前週(3.51人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.32人と前週(0.22人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.16人と前週(0.22人)から減少し、例年より低いレベルで推移しています。



知っていますか？～ロタウイルスによる感染性胃腸炎～

ロタウイルスによる胃腸炎は、乳幼児に好発する感染症で、例年は春先に流行がみられます。年齢が低いほど重症化しやすく、脱水やけいれんなどの合併症を引き起こすこともあります。

令和2年以降は、新型コロナウイルス感染症の流行やロタウイルスワクチンの定期接種の導入などにより報告数は大幅に減少しましたが、今後は再び増加する可能性もあります。定期接種の対象のお子さんは、適切な時期に接種を開始し、期間内に完了しておきましょう。

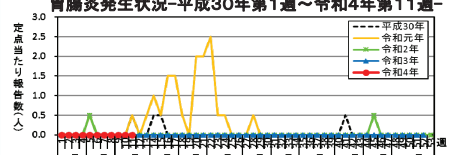
ロタウイルスによる感染性胃腸炎とは？

- 【感染経路】 経口感染
- 【潜伏期間】 2～4日間
- 【主な症状】 下痢、吐き気、嘔吐、発熱、腹痛など
- 【合併症】 脱水、けいれん、肝機能異常など
重症例では、脳症、心筋炎、急性腎不全など
- 【予防接種】 国内では2種類のワクチンが使用されています。
 ✓ロタリックス⇒2回接種（出生6週0日後から24週0日後）
 ✓ロタテック ⇒3回接種（出生6週0日後から32週0日後）
 ※2回目以降は27日以上の間隔をあけて接種します。
 ※ワクチンにより接種回数異なるので御注意ください。



けいれんや意識障害などの症状がみられたら、速やかに医療機関を受診しましょう。

川崎市内在籍定点病院におけるロタウイルスによる感染性胃腸炎発生状況～平成30年第1週～令和4年第11週～



ロタウイルスワクチンの接種時期について

腸重積症は腸の一部が隣接する腸管にはまり込む病気で、3か月～2歳くらいの乳幼児に好発します。また、ロタウイルスワクチン接種後1～2週間は腸重積症にかかりやすくなると報告されています。腸重積症の発症を防ぐため、初回接種は出生6週0日後から出生14週6日後までに受けることをお勧めします。

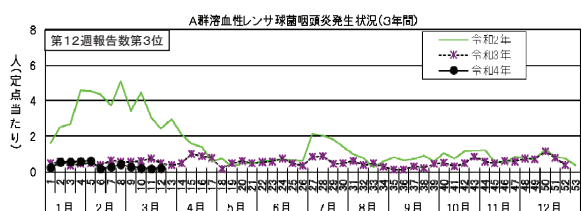
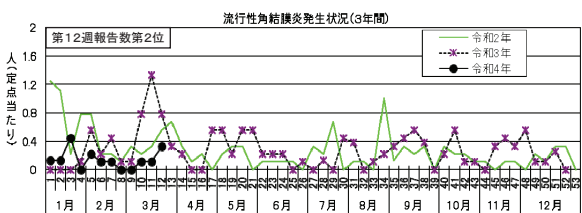
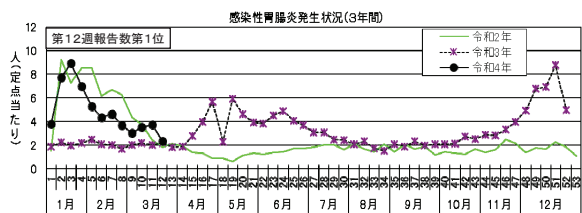
川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所） 令和4年3月23日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年3月21日（月）～令和4年3月27日（日）〔令和4年第12週〕の感染症発生状況

第12週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 流行性角結膜炎 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.30人と前週(3.70人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.33人と前週(0.11人)から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.22人と前週(0.16人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



新年度から元気に過ごすために！

これから新年度を迎え、保育園や学校などでの集団生活が始まり、接触の機会が増加すると、様々な感染症にかかる可能性が高くなります。新型コロナウイルス感染症の流行開始以降、多くの感染症の報告数が減少しましたが、今後は徐々に増加する可能性があります。例年、春から初夏にかけては、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎や咽頭結膜熱などの流行がみられるため、こまめな手洗いなど基本的な感染対策を心掛け、体調管理には十分注意しましょう。

また、麻しんや風しんなどのように、ワクチン接種で感染を防ぐことができる感染症もあります。川崎市では、申請することで定期予防接種の接種期間を延長できる場合もあるため、入園・入学前に予防接種歴を確認し、まだ定期予防接種が済んでいないお子さんは早めに接種を受けましょう。

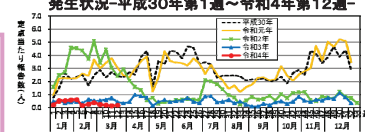
感染症にかからないために気を付けるポイント

- 1 予防接種
- 2 こまめな手洗い
- 3 正しいマスク着用
- 4 十分な睡眠
- 5 バランスのとれた食事

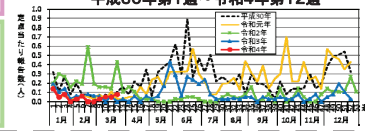
麻しん・風しん(MR)定期接種の対象者

- 【第1期】 生後12月から生後24月に至るまでの間にある者
- 【第2期】 小学校就学前の年度1年間（4月1日～翌年3月31日）にある者

川崎市におけるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況～平成30年第1週～令和4年第12週～



川崎市における咽頭結膜熱発生状況～平成30年第1週～令和4年第12週～



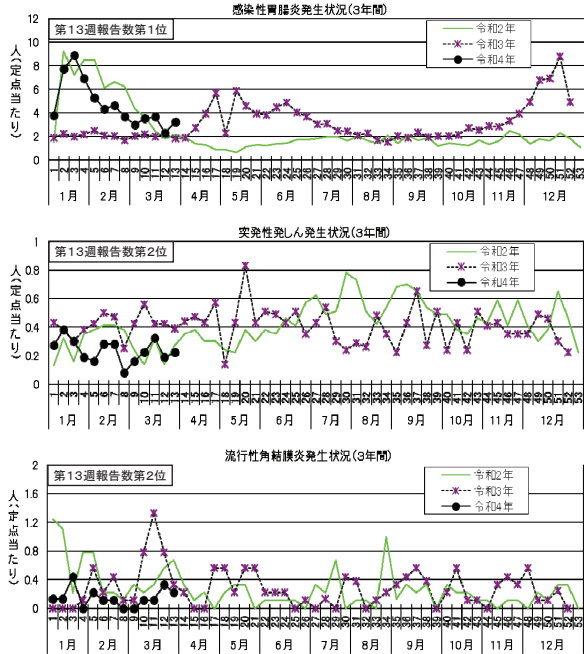
川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所） 令和4年3月29日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年3月28日（月）～令和4年4月3日（日）〔令和4年第13週〕の感染症発生状況

第13週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 突発性発しん・流行性角結膜炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.22人と前週(2.30人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.22人と前週(0.19人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.22人と前週(0.33人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

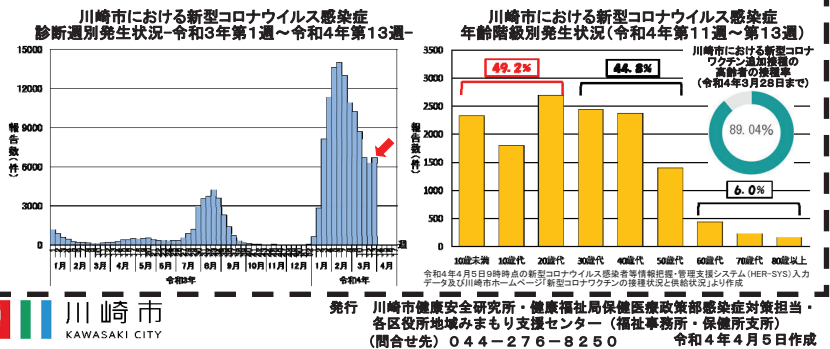


新型コロナウイルス感染症～報告数が再び増加～

川崎市における令和4年第13週(3月28日～4月3日)の新型コロナウイルス感染症の報告数は、6687件と7週間ぶりに増加に転じ、リバウンドの兆候がみられています。

また、直近3週間(3月14日～4月3日)の新規感染者のうち、20歳代までの割合は49.2%と約半数を占めており、若年層の増加が全体の報告数の増加に影響していると考えられます。一方、60歳以上の方の割合は6.0%と非常に少なく、高齢者における新型コロナウイルスワクチンの高い追加接種率(89.04%)を反映していると考えられます。

感染の再拡大を防止するためには、日々の予防対策の徹底に加え、追加接種が重要となります。接種可能な方は早めの接種を御検討ください。

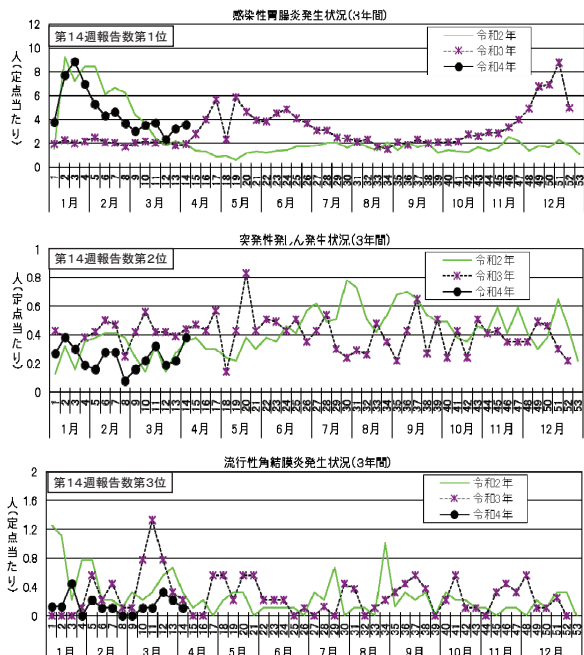


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年4月4日（月）～令和4年4月10日（日）〔令和4年第14週〕の感染症発生状況

第14週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 突発性発しん 3) 流行性角結膜炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.57人と前週(3.22人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.38人と前週(0.22人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.11人と前週(0.22人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



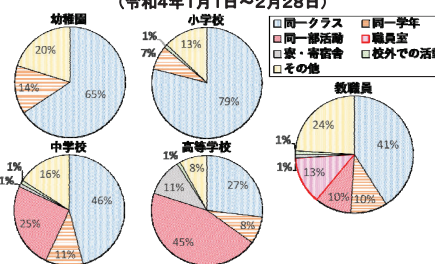
新型コロナウイルス感染症～学校等での予防対策～

新学期が始まり、子ども同士が接触する機会も増えてきました。児童生徒等における新型コロナウイルス感染症の感染経路は、家庭内が最も多いとされていますが、学校内での感染も一定程度報告されています。

学校内感染のうち、同一クラスでの感染は幼稚園では65%、小学校では79%と多くを占めるものの、中学校や高等学校になると同一部活動での感染が25%、45%と多くなります。また、教職員は教室内や部活動だけでなく、職員室での感染も13%認められます。

学校内では、学校や年齢ごとの特徴を踏まえて、各自が有効な対策を講じましょう。

全国における児童生徒等及び教職員の学校内感染経路の詳細(令和4年1月1日～2月28日)



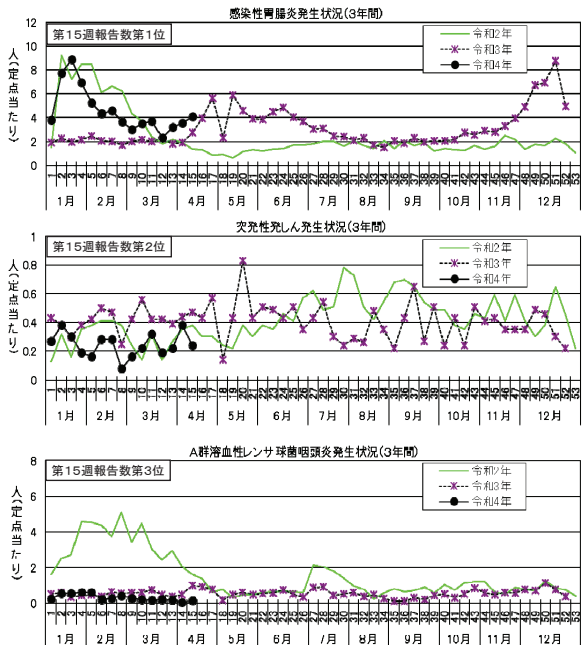
川崎市 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所) (問合せ先) 044-276-8250 令和4年4月12日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年4月11日（月）～令和4年4月17日（日）〔令和4年第15週〕の感染症発生状況

第15週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 突発性発しん 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.11人と前週(3.57人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.24人と前週(0.38人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.14人と前週(0.03人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



E型肝炎の報告数が増加しています

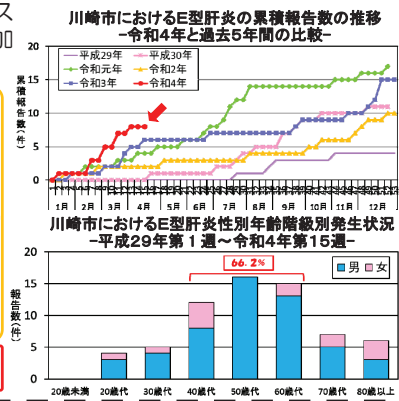
川崎市における令和4年のE型肝炎の報告数は、第15週(4月11日～17日)までに計8件と、過去5年間と比較して最多となっています。平成29年以降の報告では、男性が全体の8割を占め、年齢階級別では40～60歳代の報告が66.2%でした。

E型肝炎は、主にE型肝炎ウイルスに汚染された食物、水等の摂取により感染するとされており、国内では生又は加熱不十分な肉等の喫食が原因と推定された事例も報告されています。ウイルスは加熱により死滅するため、肉は十分に加熱してから食べましょう。

E型肝炎について

- 【病原体】 E型肝炎ウイルス(遺伝子型1～4型)
- 【潜伏期間】 15～50日(平均6週間)
- 【主な症状】 悪心、食欲不振、腹痛等の消化器症状、倦怠感、黄疸等
- 【主な推定感染原因】 生又は加熱不十分な肉等の喫食(豚しゃぶ、インシシ肉、鹿肉等)
- 【予後】 比較的良好(致死率:1～4%)

妊婦が感染すると劇症化しやすく、致死率が25%に達することもあるといわれています。



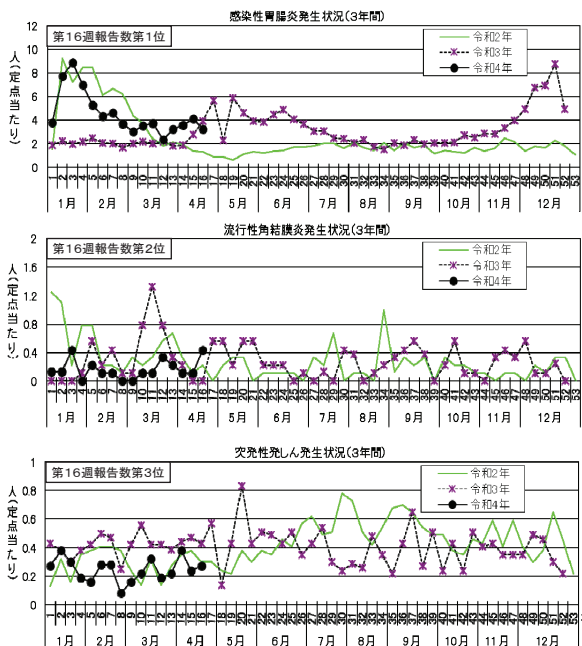
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)
(問合せ先) 044-276-8250 令和4年4月19日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年4月18日（月）～令和4年4月24日（日）〔令和4年第16週〕の感染症発生状況

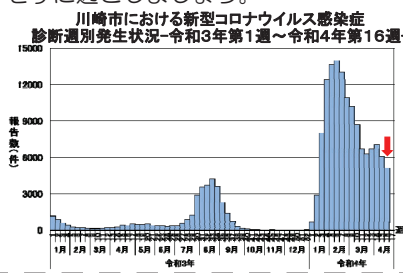
第16週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 流行性角結膜炎 3) 突発性発しんでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.24人と前週(4.11人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.44人と前週(0.11人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.27人と前週(0.24人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



ゴールデンウィークにかけて気をつけたいこと

ゴールデンウィーク中は、移動や接触の機会が増えるため、感染症が拡大する懸念があります。川崎市における令和4年第16週(4月18日～24日)の新型コロナウイルス感染症の報告数も、5114件と減少傾向にはあるものの、依然として多い状況です。また、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎等、春から夏にかけて報告数が増加する感染症もあります。感染症の拡大防止のため、引き続き人混みではマスクを着用し、手指衛生等の予防対策を徹底しましょう。さらに、令和4年1月以降、欧米を中心に小児の原因不明の重症急性肝炎も報告されています。

感染症の発生動向に注意し、体調がすぐれない場合は外出を控え、無理をせずに過ごしましょう。



欧米を中心に発生している小児の原因不明の重症急性肝炎について

- 【発生地域】 英国、スペイン、イスラエル、アメリカ合衆国等
- 【発症時期】 令和4年1月以降
- 【症状】 多くの症例で腹痛、下痢、嘔吐等の消化器症状が先行、その後、肝機能障害、黄疸が出現
- ほとんどの症例で発熱はなし
- 肝移植を要した症例や死亡例の報告もあり
- 【原因】 現時点では不明(アデノウイルスや新型コロナウイルスが検出された症例もあり)
- 【国内の状況】 現時点で、16歳以下の子どもの1名が原因不明の急性肝炎と診断され入院中

WHO Multi-Country - Acute, severe hepatitis of unknown origin in children seen mostly from



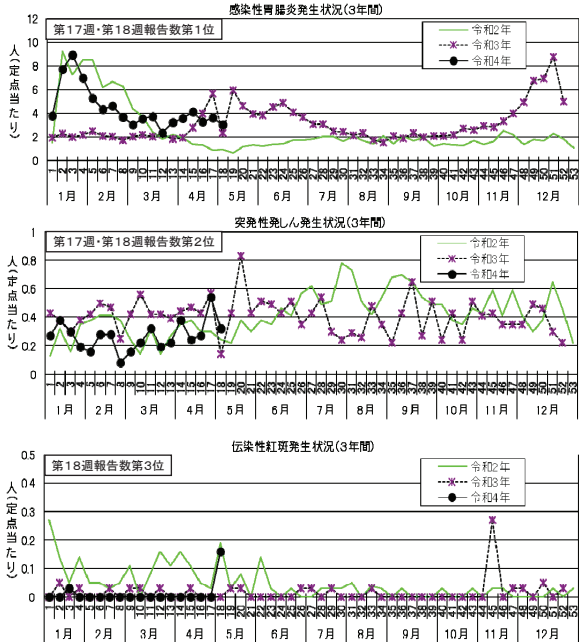
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)
(問合せ先) 044-276-8250 令和4年4月26日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年4月25日(月)～5月1日(日)〔第17週〕及び5月2日(月)～5月8日(日)〔第18週〕の感染症発生状況

第17週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 突発性発しん 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 第18週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 突発性発しん 3) 伝染性紅斑でした。
 第18週の感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.03人と前週(0.32人と前週(0.59人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 第18週の突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.32人と前週(0.54人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



知っていますか?～アデノウイルスによる感染症～

アデノウイルス感染症は、呼吸器症状や眼症状、消化器症状等多様な症状を呈するウイルス性疾患です。アデノウイルスには多くの血清型があり、型によって出現する症状の傾向が異なります。代表的な疾患としては、咽頭結膜熱や流行性角結膜炎等があり、特に咽頭結膜熱は例年初夏から夏にかけて流行するため、これからの時期は報告数が増加する可能性があります。

アデノウイルスは感染力が強く、飛沫や接触により感染するため、保育園等の集団生活の場ではタオル等の共用は避け、手洗いや手指消毒等の予防対策を徹底しましょう。

咽頭結膜熱について

感染経路
接触感染、飛沫感染

潜伏期間
5～7日間

主な症状
突然の発熱(39度前後)、のどの痛み、結膜充血等
※基礎疾患等を有する児では重症化の傾向がある。

流行性角結膜炎について

感染経路
接触感染

潜伏期間
8～14日間

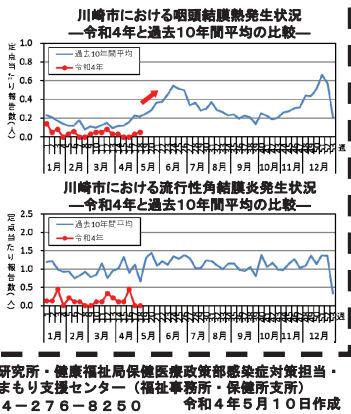
主な症状
流涙、目やに、結膜充血、まぶたの腫れ等
※細菌との混合感染により、失明することもある。

予防対策

手洗い・手指消毒を徹底する。

タオルやおもちゃの共用は避ける。

プール等の利用前後はシャワーを浴びる。

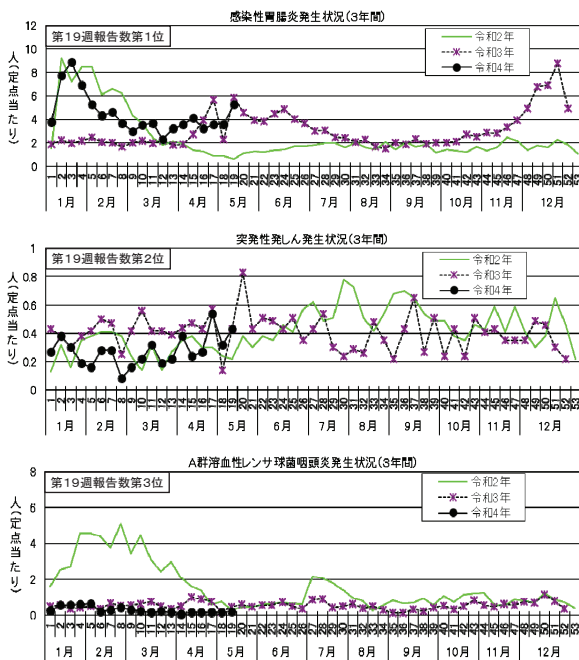


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年5月9日(月)～令和4年5月15日(日)〔令和4年第19週〕の感染症発生状況

第19週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 突発性発しん 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.30人と前週(3.03人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.43人と前週(0.32人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.19人と前週(0.05人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

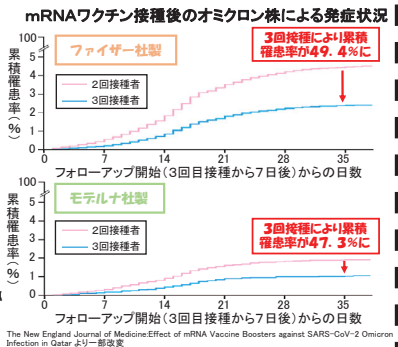
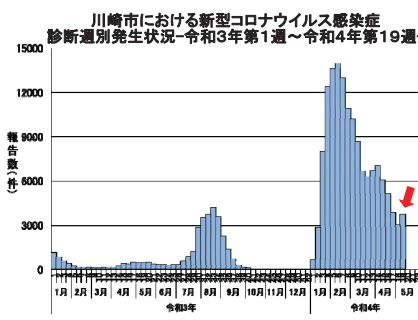


新型コロナウイルス感染症～報告数が5週間ぶりに増加～

川崎市における令和4年第19週(5月9日～5月15日)の新型コロナウイルス感染症の報告数は3741件と、5週間ぶりに増加に転じました。

現在流行の主流であるオミクロン株のBA.2系統は、今年の3月頃主流であったBA.1系統と比べ感染力が強いものの、ワクチンの有効性は同程度とされています。国内で使用されているmRNAワクチンの3回接種は有効性が高く、重症化率を大きく下げられるだけでなく、累積罹患率も5割以下まで低下させると海外のデータで示されています。

感染の再拡大を防止するためにも、すでに2回接種をされている方は是非3回目の接種を検討しましょう。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当
 各区役所地域みまもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)
 (問合せ先) 044-276-8250 令和4年5月17日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年5月16日（月）～令和4年5月22日（日）〔令和4年第20週〕の感染症発生状況

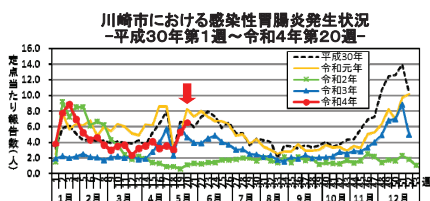
第20週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 突発性発しん 3) 咽頭結膜熱でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.46人と前週（5.30人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.57人と前週（0.43人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 咽頭結膜熱の定点当たり患者報告数は0.24人と前週（0.14人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



感染性胃腸炎～報告数が徐々に増加しています～

川崎市における感染性胃腸炎の令和4年第20週（5月16日～5月22日）の報告数は定点当たり6.46人と、2週前から徐々に増加しています。
 感染性胃腸炎は、細菌（カンピロバクター、腸管出血性大腸菌など）やウイルス（ノロウイルス、ロタウイルス、アデノウイルスなど）等の感染性病原体により、下痢や嘔吐、腹痛等の消化器症状を呈する疾患です。原因となる病原体によって症状の程度が異なりますが、カンピロバクター等による食中毒では激しい下痢が出現します。

下痢や嘔吐を繰り返すと、特に小児や高齢の方は脱水症状を起こすこともあります。症状が激しい場合はすぐに医療機関を受診するようにしましょう。



近年、カンピロバクターを原因とする食中毒が増えています。原因の大多数は、生又は加熱不十分な食肉（鶏刺し等）の喫食や、原材料の食肉からの二次汚染です。

感染性胃腸炎とは？

【病原体】 細菌・ウイルス等
【感染経路】 経口感染、接触感染
【主な症状】 下痢、吐き気、嘔吐、発熱、腹痛等
【予防対策】

- 手指衛生
- 食材の十分な加熱
- 嘔吐物等の適切処理
- 調理器具等の洗浄・殺菌

川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和4年5月24日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年5月23日（月）～令和4年5月29日（日）〔令和4年第21週〕の感染症発生状況

第21週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発しんでした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は7.35人と前週（6.46人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.41人と前週（0.22人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.38人と前週（0.57人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



新型コロナウイルスの4回目接種が開始されました！

川崎市では、新型コロナウイルスに感染した場合の重症化予防を目的として、令和4年5月25日（水）から、対象者を限定して新型コロナワクチンの4回目接種を開始しました。60歳以上の方には、3回目接種の時期に応じて接種券が発送されますが、18～59歳の方には、接種券の発行申請手続き案内が発送されます。18～59歳で基礎疾患を有する方等対象の方は、御自身で接種券の発行申請が必要となりますので、手続きをお願いいたします。

高齢者の4回接種は、3回接種に比べ有効性が高いことを示す海外のデータもありますので、早めに接種を検討しましょう。

川崎市における新型コロナワクチンの4回目接種について

- 実施期間 令和4年5月25日～令和4年9月30日
- 対象者 新型コロナワクチンを3回接種済の方で、次のいずれかに該当する方
 - ①60歳以上の方
 - ②18～59歳で、基礎疾患を有する方
 - ・新型コロナウィルス感染症にかかった場合に重症化リスクが高いと医師が認める方
- 接種間隔 3回目接種から5か月以上
- 使用するワクチン ファイザー社製又は武田/モデルナ社製ワクチン

川崎市における新型コロナワクチンの4回目接種の接種券の発送スケジュール（60歳以上の方）

| 接種券の発送日 | 3回目接種の時期 |
|---------------|---------------------|
| 令和4年5月27日 発送済 | 令和3年12月1日～令和4年1月9日 |
| 令和4年6月 3日 | 令和4年1月10日～令和4年1月16日 |
| 令和4年6月10日 | 令和4年1月17日～令和4年1月23日 |
| 令和4年6月17日 | 令和4年1月24日～令和4年1月30日 |
| 令和4年6月24日 | 令和4年1月31日～令和4年2月6日 |

以降、毎週金曜日（祝日の場合は前日の木曜日）に順次発送します。

川崎市における新型コロナワクチンの4回目接種券の発行申請手続き案内の発送スケジュール（18歳～59歳の方）

| 案内の発送日 | 3回目接種の時期 |
|-----------|---------------------|
| 令和4年6月17日 | 令和3年12月1日～令和4年2月20日 |
| 令和4年6月24日 | 令和4年2月21日～令和4年2月27日 |
| 令和4年7月 1日 | 令和4年2月28日～令和4年3月6日 |

以降、毎週金曜日（祝日の場合は前日の木曜日）に順次発送します。
*詳細については川崎市ホームページ「ワクチン接種」4回目接種を受けの方へをご覧ください。

川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和4年5月31日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年5月30日（月）～令和4年6月5日（日）〔令和4年第22週〕の感染症発生状況

第22週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 突発性発しん 3) 流行性角結膜炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.16人と前週（7.35人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.43人と前週（0.38人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.33人と前週（0.11人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



新型コロナウイルス感染症～マスク着用の考え方～

新型コロナウイルス感染症流行下におけるマスクの着用について、厚生労働省が考え方を定めました。屋外では、他人と2m以上の距離が確保できる場合や、会話をほとんど行わない場合は、マスクの着用は不要です。屋内では、他人と2m以上の距離が確保できていても、会話を行う場合はマスクの着用が必要です。また、屋内、屋外を問わず、2歳未満の乳幼児についてはマスクの着用は推奨されておらず、2歳以上の就学前の子どもについてもマスクの着用は一律には求められていません。

特に夏場は熱中症防止の観点から、屋外においてマスクが必要のない場面では、マスクを外すことが推奨されています。感染対策としてマスクは重要ですが、必要のない場面ではマスクを外し、健康的に過ごしましょう。

マスクの着用が必要な例

屋内

会話をする場合は距離を問わず
マスクを着用

十分な換気等感染防止対策を講じている場合は外すことも可

屋外

電車やバス等では
会話がなくても
マスクを着用

屋外

屋外でも近距離で
会話をする場合は
マスクを着用

厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部 マスクの着用に関するリーフレットより作成

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）（問合せ先）044-276-8250 令和4年6月7日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年6月6日（月）～令和4年6月12日（日）〔令和4年第23週〕の感染症発生状況

第23週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 突発性発しん 3) 流行性角結膜炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.97人と前週（6.16人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.57人と前週（0.43人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.44人と前週（0.33人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



気を付けたい感染症～流行性耳下腺炎～

流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）は、ムンプスウイルスを原因とし、両側又は片側の耳の下の腫れや痛みを特徴とする全身性感染症です。通常は1～2週間で軽快しますが、髄膜炎や難聴などの合併症を伴うことがあるため、任意接種ではありますが、ワクチン接種による予防が推奨されています。

流行性耳下腺炎は、数年毎に流行する傾向があり、直近では平成28年に大きな流行がみられました。近年は新型コロナウイルス感染症の流行により報告数が減少していましたが、川崎市における報告数は令和4年3月下旬から徐々に増加し、令和4年第23週（6月6日～6月12日）は定点当たり0.11人となりました。今後の流行状況に注意が必要です。

流行性耳下腺炎とは？

【感染経路】
唾液などによる飛沫、接触感染

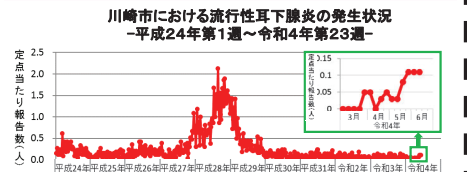
【潜伏期間】
2～3週間（平均18日前後）

【主な症状】
両側又は片側の耳の下の腫れや痛み、発熱
※感染しても症状の出ない（不顕性感染）が30%程度

【合併症】
無菌性髄膜炎、睾丸炎、卵巣炎、難聴
※特に妊婦では感染すると自然流産することもあり

流行性耳下腺炎と難聴について

流行性耳下腺炎の合併症であるムンプスウイルスは、1000人に1人の割合でみられます。難聴は治療が難しく、平成27年から平成28年には少なくとも348人が難聴になり、300人近くの方に後遺症が残ったと報告されています。



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）（問合せ先）044-276-8250 令和4年6月14日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年6月13日（月）～令和4年6月19日（日）〔令和4年第24週〕の感染症発生状況

第24週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 流行性角結膜炎 3) 突発性発しんでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は7.00人と前週（5.97人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.56人と前週（0.44人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.38人と前週（0.57人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



新型コロナウイルス感染症～「り患後症状」について～

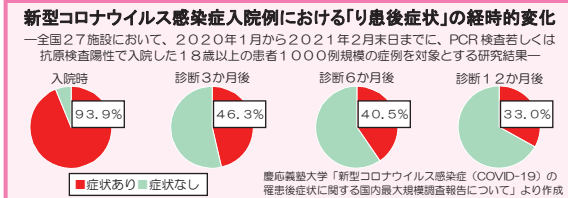
新型コロナウイルス感染症は、り患後に様々な症状を認めることが分かってきました。国内で行われた調査によると、診断後3か月時点では、女性に高頻度に症状がみられましたが、男女の差は経過とともに小さくなりました。若年者には脱毛、嗅覚障害、頭痛が多く、高齢者には筋力低下、咳、関節痛が多い傾向が認められました。り患後症状の中には、発症から12か月を過ぎても症状が残る場合もあり、症状が1つでも続く睡眠障害や不安から、生活の質を下げることがあります。多くは経過とともに軽快する傾向にあるとされていますが、気になる症状が続く場合は医療機関への受診をお勧めします。

（詳細は川崎市ホームページをご覧ください。 <https://www.city.kawasaki.jp/350/page/0000134505.html>）

り患後症状は、新型コロナウイルス感染症が軽症であってのみみられますので、基本的な感染対策を徹底し、新型コロナウイルスに感染しないようにしましょう。

代表的な「り患後症状」

- 全身症状**
倦怠感、関節痛、筋肉痛
- 呼吸器症状**
咳、喀痰、息切れ、胸痛
- 精神・神経症状**
記憶障害、集中力低下、不眠、頭痛、抑うつ
- その他の症状**
味覚障害、嗅覚障害、動悸、下痢、腹痛



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和4年6月21日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年6月20日（月）～令和4年6月26日（日）〔令和4年第25週〕の感染症発生状況

第25週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) RSウイルス感染症 3) 突発性発しんでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.59人と前週（7.00人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は0.95人と前週（0.11人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.54人と前週（0.38人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

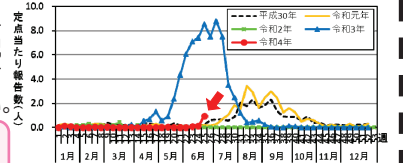


RSウイルス感染症の報告数が急激に増加しています！

川崎市における令和4年第25週（6月20日～26日）のRSウイルス感染症の患者報告数が、定点当たり0.95人となり、先週から急増しています。昨年は5月中旬から報告数が急増し、初夏にもかかわらず大きな流行となったため、今年も発生動向には注意が必要です。

また、RSウイルス感染症は、通常2歳までにほとんどの児が感染するといわれていますが、第25週の川崎市における報告では、3～5歳児が3.14%と、昨年と同様に年長児にも多く発生がみられます。RSウイルス感染症は、早産児やリスクの高い基礎疾患を有する児が感染すると重症化することがありますので、周囲の流行状況に御注意ください。

川崎市におけるRSウイルス感染症発生状況（5年間）



学校・保育園等欠席者サーベイランス【RSウイルス感染症と診断された保育園児報告数※】



令和4年6月27日（月）

（令和4年6月28日 15:00時点集計）

RSウイルス感染症とは

- 【感染経路】**
飛沫感染、接触感染
- 【潜伏期間】**
2～8日（典型的には4～6日）
- 【症状】**
発熱・咳・鼻汁等の風邪様症状

多くは軽症で済みますが、細気管支炎や肺炎を起こし、喘鳴や呼吸困難などの症状が出現するお子さんもいます。



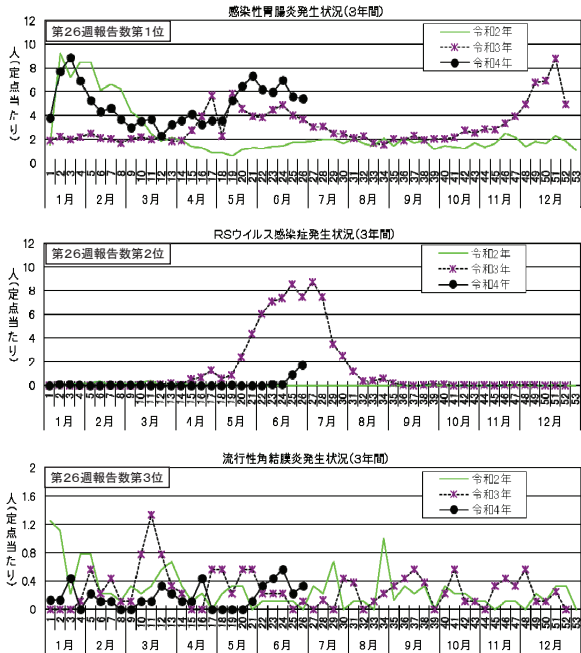
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和4年6月28日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年6月27日（月）～令和4年7月3日（日）〔令和4年第26週〕の感染症発生状況

第26週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) RSウイルス感染症 3) 流行性角結膜炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.43人と前週（5.59人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は1.73人と前週（0.95人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.33人と前週（0.22人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



知っていますか？～サル痘～

サル痘は、人と動物の共通感染症で、主にサル痘ウイルスを保有する動物に咬まれることで感染するといわれています。感染したサルから発見されたため、サル痘と呼ばれていますが、自然界でウイルスを保有している動物は、アフリカに生息するネズミヤリスなどのげっ歯類とされています。従来はアフリカからの報告が主でしたが、2022年5月以降は、ヨーロッパ及び北米において発生の報告が相次いでいます。また最近では、シンガポールや韓国、台湾等アジアからも報告がみられるようになりました。サル痘は、水痘やその他の発しんを生じる疾患との鑑別が難しいため、最近サル痘常在国や、サル痘症例が報告されている国に滞在歴がある方で、発しん等の症状が出現した方は、医療機関に御相談ください。

サル痘とは？

- 【感染経路】 感染した動物や人の血液、体液、皮膚病変部との接触により感染
 - 【潜伏期間】 5～21日間（通常7～14日間）
 - 【主な症状】 発熱やリンパ節の腫脹が数日持続した後、顔面を中心に発しんが出現（手のひらや足底等にも出現）
 - 【経過】 2～4週間で自然に軽快
- ※小児や妊婦、免疫不全の方は重症化に注意が必要

世界における2022年7月1日時点でのサル痘の発生状況



川崎市
KAWASAKI CITY

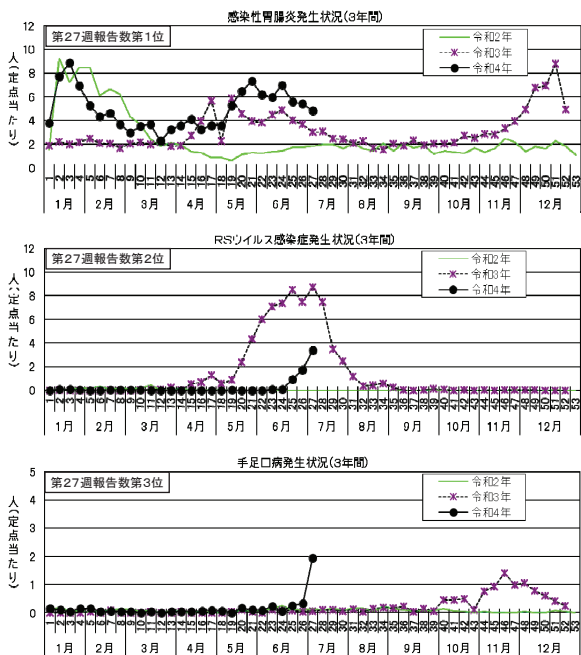
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和4年7月5日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年7月4日（月）～令和4年7月10日（日）〔令和4年第27週〕の感染症発生状況

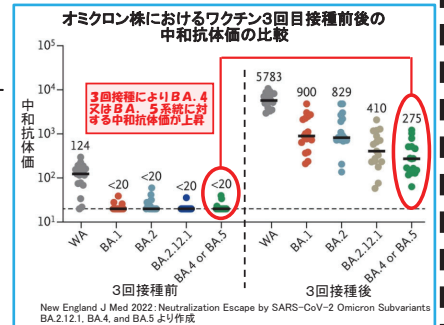
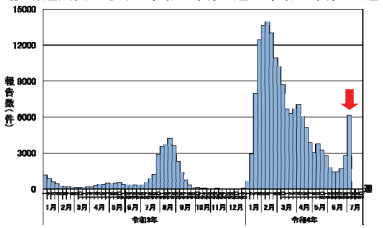
第27週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) RSウイルス感染症 3) 手足口病でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.81人と前週（5.43人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は3.41人と前週（1.73人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。手足口病の定点当たり患者報告数は1.95人と前週（0.32人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



新型コロナウイルス感染症～2週連続で報告数が増加

川崎市における新型コロナウイルス感染症の報告数は、令和4年第27週（7月4日～7月10日）に6124件と、前週から急激に増加しました。これまではオミクロン株のBA.2系統が流行の主流でしたが、感染力が強いとされているBA.5系統が、現在川崎市でも報告されています。欧米ではBA.5系統の増加に伴い、感染者が急増している国もあり注意が必要です。BA.5系統に対する新型コロナワクチンの有効性は、BA.1、BA.2系統より低いものの、一定の効果はあるとされています。接種者数が増えれば、新規感染者数の増加を抑えることができるため、3回接種済の高齢者の方等は4回目の接種を、2回接種済の方は3回目接種を御検討ください。

川崎市における新型コロナウイルス感染症診断週別発生状況-令和3年第1週～令和4年第27週-



川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和4年7月12日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年7月11日（月）～令和4年7月17日（日）〔令和4年第28週〕の感染症発生状況

第28週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) RSウイルス感染症 3) 手足口病でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.54人と前週（4.81人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は4.17人と前週（3.41人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。手足口病の定点当たり患者報告数は2.89人と前週（1.95人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

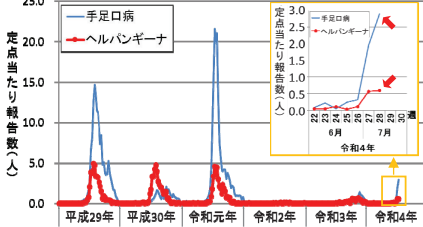


夏かせに注意～手足口病・ヘルパンギーナ～

手足口病やヘルパンギーナは、エンテロウイルス属のコクサッキーウイルスなどを原因とする感染症です。通常は夏季に流行しますが、新型コロナウイルス感染症の流行が始まった令和2年以降は報告数が大幅に減少していました。今年、川崎市における令和4年第28週（7月11日～7月17日）の手足口病及びヘルパンギーナの患者報告数が、それぞれ定点当たり2.89人、0.60人といずれも3週連続で増加しており、注意が必要です。

手足口病とヘルパンギーナは、発しんや口腔内の水疱など特徴的な症状もみられますが、発症初期は新型コロナウイルス感染症との鑑別が難しいこともあるため、お子さんの発熱時は、他の症状の有無にも御注意ください。

川崎市における手足口病とヘルパンギーナの発生状況
～平成29年第1週～令和4年第28週～



手足口病とは？
感染経路：飛沫感染、接触感染、糞口感染
潜伏期間：3～5日
症状：軽度の発熱（38℃以下が多い）、手・足・口・口腔内などに水疱性の発しん
 ※基本的に予後は良好ですが、まれに重症化して髄膜炎や脳炎などを引き起こすことがあります。

ヘルパンギーナとは？
感染経路：飛沫感染、接触感染、糞口感染
潜伏期間：2～4日
症状：突然の発熱（38～40℃程度）、咽頭痛、口腔内に水疱や白い潰瘍
 ※発熱は1～3日程度で、ほとんどは予後良好ですが、まれに髄膜炎、心筋炎等を合併することもあります。

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和4年7月20日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年7月18日（月）～令和4年7月24日（日）〔令和4年第29週〕の感染症発生状況

第29週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) RSウイルス感染症 3) 手足口病でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.22人と前週（4.42人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は2.24人と前週（4.14人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。手足口病の定点当たり患者報告数は2.11人と前週（2.83人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



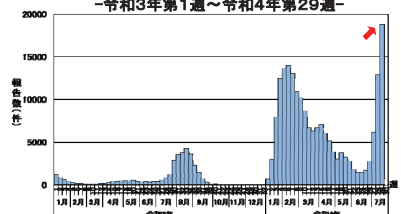
新型コロナウイルス感染症～報告数が流行開始以来最多に～

川崎市における新型コロナウイルス感染症の報告数は、令和4年第29週（7月18日～7月24日）に18754件となり、第6週（2月7日～2月13日）の13960件を大きく上回り、過去最多を更新しました。

現在の流行の主流であるオミクロン株は、従来株と比べ潜伏期間と発症間隔が短いことから、令和4年7月22日から濃厚接触者の待機期間が原則7日間から5日間へ短縮されました。さらに、待機期間の2日目及び3日目に抗原定性検査で陰性を確認した場合は、3日目からの待機解除が可能となりました。

待機期間は短縮されますが、患者との最終接触日から7日間経過するまでは、検温など自身による健康状態の確認、高齢者や基礎疾患を有する方との接触は控える、マスクを着用するなどの感染対策を継続しましょう。

川崎市における新型コロナウイルス感染症の発生状況
～令和3年第1週～令和4年第29週～



新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者の待機期間

●一般的な待機期間
 0日目 1日目 2日目 3日目 4日目 5日目 6日目 7日目
 患者との最終接触日 ↑ 解除
 患者との最終接触日から7日間は検温、ハイリスク者との接触回避、三つの意識、マスクの着用など感染対策を継続しましょう。

●短縮可能な場合の待機期間
 0日目 1日目 2日目 3日目 4日目 5日目 6日目 7日目
 患者との最終接触日 ↑ 抗原定性検査陰性 ↑ 抗原定性検査陰性 ↑ 2回陰性であれば解除
 ※抗原定性検査キットを用いる場合は、最終接触日又は最終接触後を用いること。
 ※乳幼児の待機期間は原則5日間
 ※医療従事者、高齢者施設、発症時に従事している濃厚接触者は、一定の条件（ワクチン接種歴等）の下、待機期間を7日間へ短縮可能。

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和4年7月26日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年7月25日（月）～令和4年7月31日（日）〔令和4年第30週〕の感染症発生状況

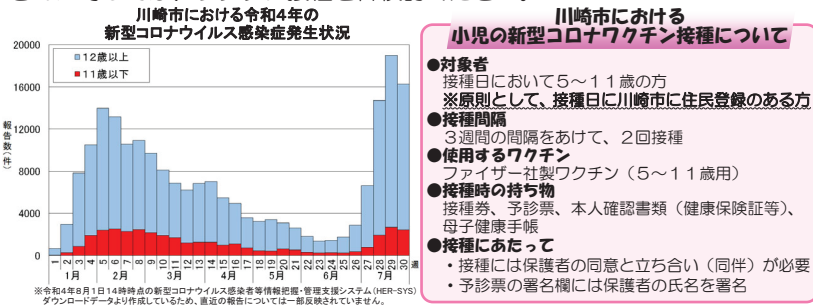
第30週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 手足口病 2) RSウイルス感染症 3) 感染性胃腸炎でした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は4.92人と前週（2.11人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は4.27人と前週（2.24人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.32人と前週（3.22人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



小児の熱性けいれんやクルーズに注意～新型コロナウイルス感染症～

川崎市における新型コロナウイルス感染症の報告数は、令和4年第30週（7月25日～7月31日）に22063件となり、過去最多を更新しました。これに伴い小児の報告数も増加しており、川崎市内では11歳以下の報告数が2500人を超える週もみられます。熱性けいれんや、クルーズ（喉の奥が腫れ、特有の咳を伴う疾患）などが発生する率も増えているため、お子さんがり患した際の体調の変化には十分注意しましょう。

国内では、5歳から11歳の小児に対しても新型コロナワクチンが承認されています。入院予防効果や発症予防効果が期待されていますので、対象のお子さんに対しては、ワクチン接種を御検討ください。



川崎市 KAWASAKI CITY 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）（問合せ先）044-276-8250 令和4年8月2日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年8月1日（月）～令和4年8月7日（日）〔令和4年第31週〕の感染症発生状況

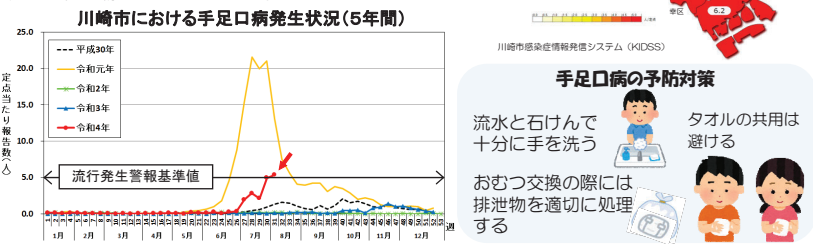
第31週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 手足口病 2) RSウイルス感染症 3) 感染性胃腸炎でした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は5.32人と前週（4.92人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は3.94人と前週（4.27人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.26人と前週（2.32人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



手足口病の流行発生警報が発令されました！

川崎市における令和4年第31週（8月1日～7日）の手足口病の患者報告数が定点当たり5.32人となり、流行発生警報基準値（定点当たり5.00人）を超えました。手足口病は、3～5日の潜伏期間を経て、手のひらや足の裏、口腔内などに水疱性の発しんが現れる疾患です。一般的には4歳以下の小児の感染が主ですが、今年は市内で報告数が増加し始めた第29週（7月18日～24日）以降、年長児の報告もみられています。

手足口病の感染経路は、飛沫感染、接触感染、糞口感染であるため、予防には、十分な手洗い、おむつの適切な処理、タオルの共用は避けるなどの対策が有効です。小児が集団で過ごす保育園等では、予防対策の徹底が重要です。



手足口病の予防対策

- 流水と石けんで十分に手を洗う
- タオルの共用は避ける
- おむつ交換の際には排泄物を適切に処理する

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年8月8日（月）～令和4年8月14日（日）〔令和4年第32週〕の感染症発生状況

第32週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 手足口病 2) RSウイルス感染症 3) 感染性胃腸炎でした。手足口病の定点当たり患者報告数は4.38人と前週（5.71人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は2.18人と前週（4.09人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.47人と前週（2.34人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。



夏季にもかかわらずインフルエンザが発生しています！

川崎市におけるインフルエンザの患者報告は、新型コロナウイルス感染症の流行開始以来ほぼありませんでしたが、今年は夏季にもかかわらず、令和4年第29週（7月18日～24日）から4週連続で発生がみられます。インフルエンザは、神奈川県だけではなく、大阪府や沖縄県などでも報告されていますが、本市のリアルタイムサーベイランスでは、A型の報告が中心です。

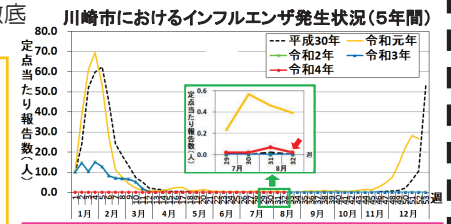
インフルエンザの感染経路は主に飛沫感染であるため、新型コロナウイルス感染症と同様に、呼吸器症状のある方との濃厚接触や、換気の悪い空間での長時間の滞在を避けることが、感染を防ぐためには大切です。また、周辺でのインフルエンザの発生状況に注意し、咳やくしゃみ等の症状がある場合は、感染を広げないために咳エチケットを徹底しましょう。

他人にうつさないための正しい咳エチケット

マスクを正しく着用する 咳やくしゃみをする時は、ティッシュ・ハンカチ、上着の内側や袖などで口や鼻を覆う

悪い事例

何もせずに咳やくしゃみをする 咳やくしゃみを手でかさえる



川崎市感染症情報発信システム(KIDSS)のリアルタイムサーベイランスによると、第29週から第32週までにインフルエンザの報告が13件あり、内訳はA型が12件、B型が1件でした。

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）（問合せ先）044-276-8250 令和4年8月16日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年8月15日（月）～令和4年8月21日（日）〔令和4年第33週〕の感染症発生状況

第33週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 手足口病 2) RSウイルス感染症 3) ヘルパンギーナでした。手足口病の定点当たり患者報告数は6.06人と前週（4.38人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は2.53人と前週（2.18人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は1.22人と前週（0.97人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



知っていますか？～急性灰白髄炎（ポリオ）～

急性灰白髄炎（ポリオ）は、ポリオウイルスを原因とする感染症です。多くは無症状ですが、神経細胞に感染するため、感染者の約0.1%に弛緩性の麻痺を残します。我が国では昭和36年にポリオ生ワクチンを緊急輸入し、小児に投与することで患者数が激減し、昭和39年からは、ポリオ生ワクチンの定期予防接種が始まりました。その後、国内での患者発生はみられなくなりましたが、ワクチン由来のウイルスによる麻痺が問題となり、現在は不活化ワクチンに切り替えられています。

しかし、国外の一部の国では現在も患者が報告されており、令和4年7月には米国においても約10年ぶりにワクチン由来の麻痺の患者が確認されました。国内でも、ワクチン接種率が低下すると、患者発生のリスクが高まりますので、定期予防接種は忘れずに受けましょう。

急性灰白髄炎とは？

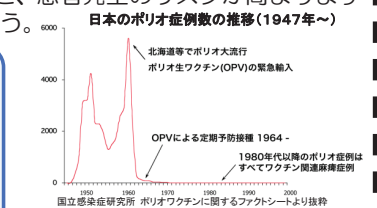
【感染経路】 接触感染、糞口感染

【潜伏期間】 3～35日間（通常7～21日間）

【主な症状】 微熱、頭痛、咽頭痛、無菌性髄膜炎、急性弛緩性麻痺

※感染しても症状の出ない人（不顕性感染）が90～95%

【予防方法】 不活化ポリオワクチンの接種：生後3～12か月に初回接種3回、初回接種から12～18か月後に追加接種1回



昭和50～52年生まれの方は要注意

昭和50～52年生まれの方は抗体保有率が低いとされています。発生国に渡航する場合などは、ワクチン接種を御検討ください。

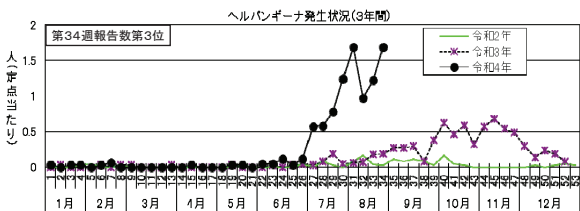
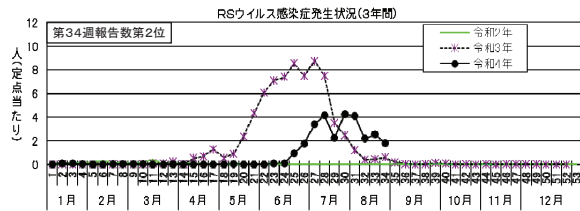
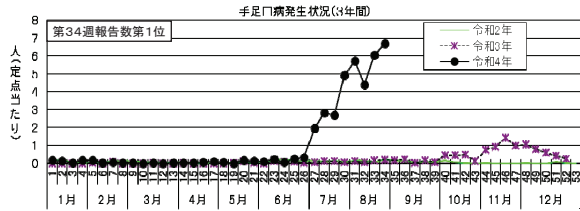
川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）（問合せ先）044-276-8250 令和4年8月23日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年8月22日（月）～令和4年8月28日（日）〔令和4年第34週〕の感染症発生状況

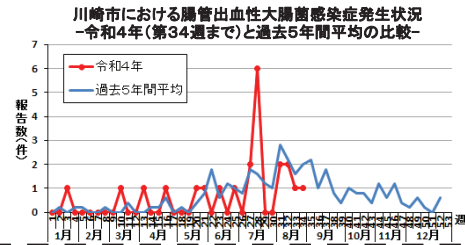
第34週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 手足口病 2) RSウイルス感染症 3) ヘルパンギーナでした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は6.69人と前週（6.06人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は1.81人と前週（2.53人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は1.69人と前週（1.22人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



腸管出血性大腸菌感染症に要注意！

腸管出血性大腸菌感染症は、強い毒素を産生する大腸菌（O157、O26など）を原因とし、激しい腹痛や頻回の水様性下痢、血便などの消化器症状を引き起こす感染症です。感染経路は経口感染であり、汚染された食品や患者の便を介して、菌が口から入ることによって感染します。

腸管出血性大腸菌は、主に牛の腸管内に常在しますが、特に夏場は保菌率が高くなるといわれており、これに伴い感染者数も例年6～9月に増加します。川崎市においても、今年は7月以降に報告数が増加し、第34週（8月22日～28日）までに計22件の報告がありました。感染を広げないために、食品の適切な取扱いや手洗いなどの予防対策を徹底しましょう。



川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和4年8月30日作成

腸管出血性大腸菌感染症の予防対策

食中毒予防対策

- 生肉や加熱不十分な肉は食べない。
- 生で食べる野菜は流水でよく洗う。
- 肉類は中心部まで十分に加熱する。（75℃、1分間以上）
- 肉、魚、野菜で調理器具を使い分ける。

二次感染予防対策

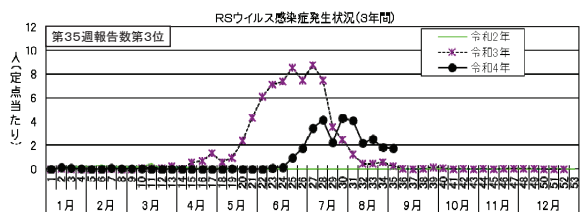
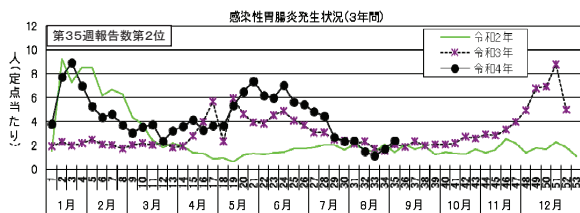
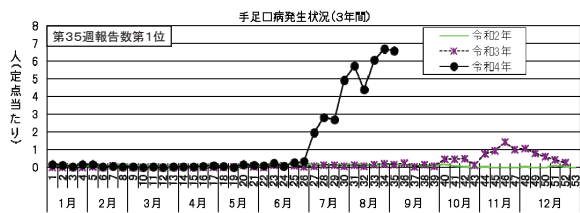
- 排便後やおむつ交換後、食前の手洗いを徹底する。
- おむつ交換は決まった場所で行い、おむつは袋に入れてすぐに捨てる。

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年8月29日（月）～令和4年9月4日（日）〔令和4年第35週〕の感染症発生状況

第35週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 手足口病 2) 感染性胃腸炎 3) RSウイルス感染症でした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は6.58人と前週（6.69人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.36人と前週（1.64人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は1.72人と前週（1.81人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

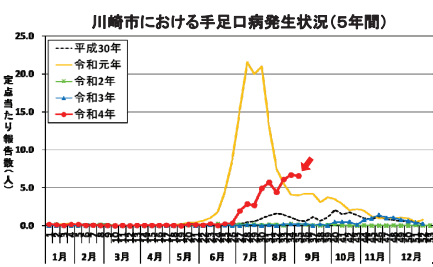


手足口病が流行中～大人も要注意！～

川崎市における令和4年第35週（8月29日～9月4日）の手足口病の患者報告数は定点当たり6.58人と、8月上旬から流行が続いており、5歳以下の乳幼児が全体の97.9%を占めています。

手足口病は手のひらや足の裏、口腔内などに水疱性の発しんが現れる疾患で、基本的には予後は良好です。まれに症状の改善後に手足の爪が剥がれ落ちることもあります。新しい爪が生えれば元に戻るとされています。

大きな流行があると成人がかかる場合もあり、その際は症状が重くなることもあります。原因となるウイルスは、症状改善後も1か月程度は便から排泄されるといわれています。お子さんがかった場合は、御家族の方も手指衛生などの予防対策を徹底するようにしましょう。



川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和4年9月6日作成

手足口病とは？

病原体：コクサッキーウイルス、エコーウイルス、エンテロウイルスなど

感染経路：飛沫感染、接触感染、糞口感染

潜伏期間：3～5日

典型的な症状：軽度の発熱、手掌・足底・足背及び口腔内の粘膜などに水疱性の発しん

予防対策：手指衛生、排泄物等の適切な処理、タオルなどの共有は避ける。

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年9月5日（月）～令和4年9月11日（日）〔令和4年第36週〕の感染症発生状況

第36週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 手足口病 2) 感染性胃腸炎 3) ヘルパンギーナでした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は6.11人と前週（6.41人）から減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.14人と前週（2.30人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は2.06人と前週（1.51人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

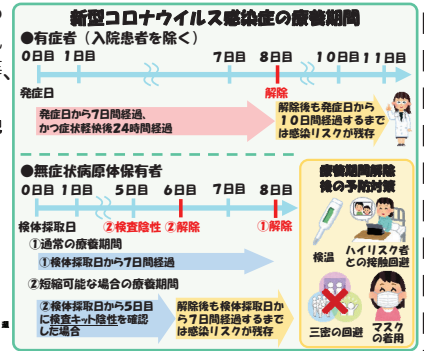
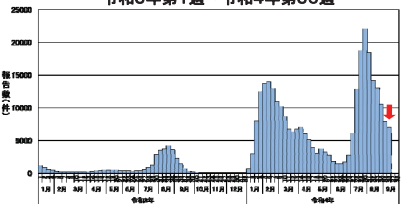


新型コロナウイルス感染症～療養期間の短縮と注意点～

我が国では、現在の流行の主流であるオミクロン株の特性を踏まえ、令和4年9月7日から、新型コロナウイルス感染症の患者に対する療養解除日の判断基準が一部変更されました。療養期間は、有症者（入院患者を除く）の場合は、発症日から7日間経過し、かつ症状軽快後24時間経過するまでとなり、無症状病原体保有者の場合は、5日目に検査キットでの陰性が確認できれば、初回検体採取日から5日間経過後に療養解除が可能となりました。

療養期間は短縮されますが、有症者は発症日から10日間、無症状病原体保有者は検体採取日から7日間経過するまでは、感染リスクが残存するとされていますので、検温やマスクの着用等、予防対策の継続を心がけましょう。

川崎市における新型コロナウイルス感染症の発生状況
 -令和3年第1週～令和4年第36週-



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和4年9月13日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年9月12日（月）～令和4年9月18日（日）〔令和4年第37週〕の感染症発生状況

第37週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 手足口病 2) 感染性胃腸炎 3) ヘルパンギーナでした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は5.22人と前週（6.11人）から減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.27人と前週（2.14人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は1.35人と前週（2.06人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



結核予防週間～高齢者の割合が増加しています～

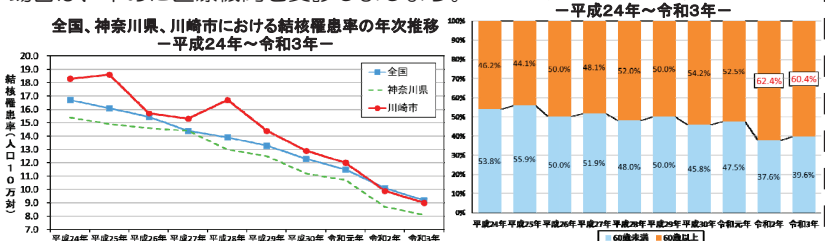
令和4年9月24日から9月30日までは結核予防週間です。

川崎市における令和3年の結核罹患率は9.0（人口10万対）と、平成24年から緩やかな減少傾向が続いています。減少の要因は、啓発活動等により早期の診断と治療がなされているためと考えられますが、令和2年以降の減少は、新型コロナウイルス感染症の流行の影響を受けた可能性もあります。

全体の報告数は減少しているものの、比較的年齢の高い60歳以上の方の報告割合は増加傾向です。特に令和2年及び令和3年は、各62.4%、60.4%と、過去10年の中でも高い割合となっています。

発症初期は、発熱や咳など風邪に似た症状を呈するため、高齢者は症状が悪化するまで気が付かないこともあります。咳や痰などの症状が2週間以上続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

川崎市における結核年齢別発生状況
 -平成24年～令和3年-



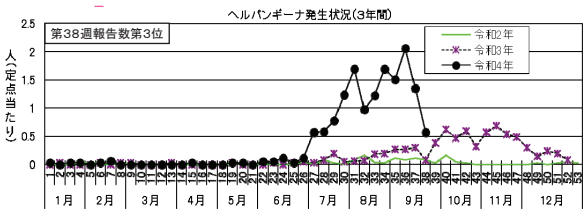
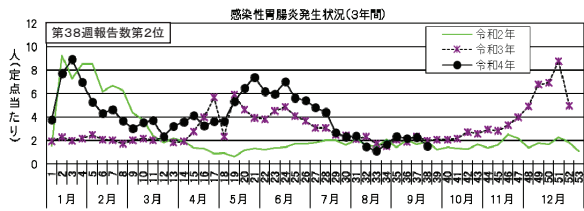
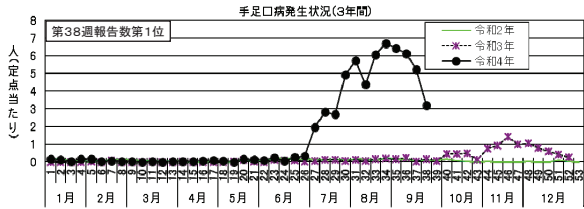
川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和4年9月21日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年9月19日（月）～令和4年9月25日（日）〔令和4年第38週〕の感染症発生状況

第38週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 手足口病 2) 感染性胃腸炎 3) ヘルパンギーナでした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は3.19人と前週（5.22人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.49人と前週（2.27人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は0.57人と前週（1.35人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



オミクロン株に対応した新型コロナワクチンの接種を開始

川崎市では、現在の流行の主流であるオミクロン株に対応した新型コロナワクチンの接種を、令和4年9月26日から開始しました。対象者は、従来型の新型コロナワクチンを2回接種済みで、接種日に12歳以上の方です。未接種又は1回接種の方は、オミクロン株に対応したワクチンの接種はできません。年齢や接種回数等により、接種開始日や接種可能なワクチンの種類が異なりますので、詳細を確認の上、接種を御検討ください。

オミクロン株対応ワクチンの接種の概要

接種対象者
 新型コロナワクチンを2回接種済みの方で、接種日に12歳以上の方
 ※原則として、接種日に川崎市に住民登録のある方が対象となります。

接種間隔・回数
 現時点では、前回の接種から5か月以上の間隔を置いて1回接種
 ※現在、国において接種間隔の短縮が検討されており、今後接種間隔が変更となる可能性があります。

接種費用
 無料

接種場所及びワクチンの種類
 市内医療機関
 ⇒ファイザー社製ワクチン（12歳以上）
 集団接種会場・大規模接種会場
 ⇒モデルナ社製ワクチン（18歳以上）
 ※12～17歳の方は、モデルナ社製ワクチンは接種不可のため、市内医療機関で接種を受けてください。

オミクロン株対応ワクチンの接種開始日及びワクチンの種類について

| 年齢 | 接種回数 | 接種開始日 | ワクチンの種類 |
|----------|--------|------------------------|----------------|
| 60歳以上の方 | 2回接種済み | 令和4年9月26日以降 | ファイザー社製・モデルナ社製 |
| | 3回接種済み | 令和4年9月26日以降 | |
| | 4回接種済み | 4回目接種から5か月経過した日以降（予定） | |
| 18～59歳の方 | 2回接種済み | 令和4年9月26日以降 | ファイザー社製・モデルナ社製 |
| | 3回接種済み | 基礎疾患を有する方、医療従事者等上記以外の方 | |
| | 4回接種済み | 4回目接種から5か月経過した日以降（予定） | |
| 12～17歳の方 | 2回接種済み | 令和4年9月26日以降 | ファイザー社製 |
| | 3回接種済み | 令和4年10月11日以降 | |



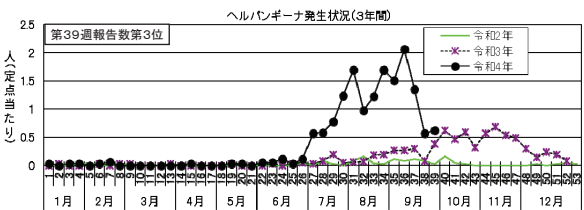
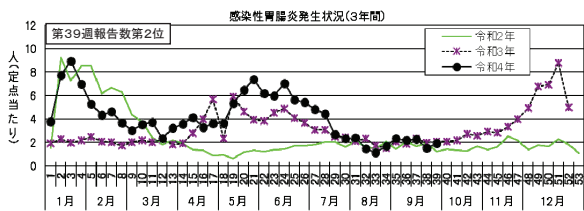
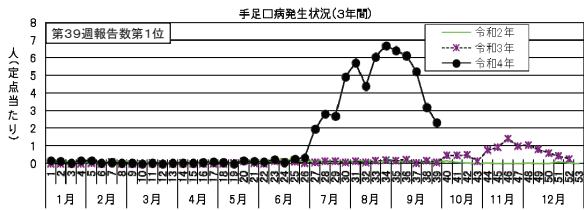
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和4年9月27日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年9月26日（月）～令和4年10月2日（日）〔令和4年第39週〕の感染症発生状況

第39週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 手足口病 2) 感染性胃腸炎 3) ヘルパンギーナでした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は2.32人と前週（3.19人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.92人と前週（1.49人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は0.62人と前週（0.57人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

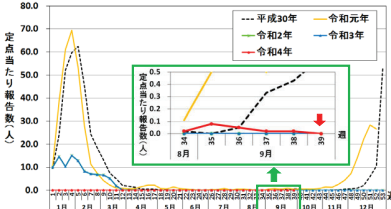


高齢者を対象としたインフルエンザ予防接種を開始しました

川崎市では、高齢者の方を対象に、令和4年10月1日からインフルエンザの定期予防接種を開始しました。新型コロナウイルス感染症の流行開始以来、インフルエンザの報告数は激減していましたが、今年は8月末以降、少数ですが報告されています。同様に、過去2年間インフルエンザの流行がみられなかった南半球のオーストラリアでは、令和4年5月から6月にかけて報告数が急増しました。今後、我が国でも同じような流行がみられる可能性があります。

インフルエンザの流行に備え、今年度に限り、高齢者の予防接種費用の自己負担が助成され、無料で予防接種を受けることができます。対象の方は接種を御検討ください。

川崎市におけるインフルエンザ発生状況（5年間）



高齢者を対象とした定期的インフルエンザ予防接種

- ◆対象者
 - 川崎市内に住民登録のある方で、次の①又は②にあてはまる方
 - ① 接種日に65歳以上の方
 - ② 接種日に60歳～65歳未満の方
 - ・心臓、腎臓、呼吸器の機能障害（障害1級程度）のある方
 - ・ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害（障害1級程度）のある方
- ◆実施期間と回数
 - 令和4年10月1日～12月31日の間に1回
- ◆接種を受けられる場所
 - 川崎市予防接種個別協力医療機関（市が指定した市内約68カ所の医療機関）
 - 接種の際は、住所及び年齢を確認できるもの（健康保険証等）をお持ちください。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問合せ先）044-276-8250 令和4年10月4日作成